

## 天草地質巡検旅行記

長大学芸学部地学専攻生

今年の夏季地質巡検は天草下島を中心に歩いた。

7日18日 晴

茂木—富岡—大江—亀浦—牛深

午前9時40分茂木港を発ち11時に富岡港に着いた。すぐ大江行のバスに乗る。西海岸を南下。無煙炭の出る竹之迫、都呂々を過ぎると、海は眼下に見下ろせるようになり、白亜紀、古第三紀の褐色の岩肌が急な傾きを見せていた。美しい景色をカメラに収めていたら、運転手が時々車を止めたりした。

下田あたりに来ると白い岩が見えた。天草陶石が出る所である。その上温泉町でもある。更に南下しトンネルを幾つか抜けた。高浜をすぎた所で「おい、Black Schistだぞ」という声が出た。窓越しに黒色片岩の露頭が見えた。「野母のと同じやろか」「いや、ちがうだろう」と口々に叫んでいた。

12時半頃大江に着いた。再び船に乗り亀浦に向った。先程のバスの運転手の話では、1週間位したら、牛深迄バスが行くようになるそうである。大江港を出た船は可成り波にもまれた。軍ヶ浦に到る海岸及び羊角湾で見事に成層した壮大な露頭が連続して見られた。素晴らしい巨岩を見ながら昼食を済ませたところ、船は静かな内海に入り軍ヶ浦に着いた。小高い丘の上に教会が見えた。昔からのキリシタン信仰の地であったのだろうか。……

軍ヶ浦—亀浦の間でも小規模な露頭を多く見た。小1時間着いた。港からバスの停留所迄

およそ半Kmくらいあるらしい。時計を見たらバスの通過時刻迄数分しかない。近くに露頭も見えていたが、断念して、重いリュックを背に、大きな登山靴を履いたその足で一目散にかけ出してやっと牛深行のバスに乗れた。汗を拭くのが大変だった。一山越えて魚貫(オニキ)へ出ると魚貫、権現山の炭鉱の坑外設備が見えた。やはり、ここも無煙炭が出るそうである。兩天あたりに来ると黒色頁岩、泥っぽい砂岩、白っぽい砂岩等の崖が見えた。

午後3時半に牛深に着いた。「だるま館」という宿に一応荷を下ろした。市役所の御厚意により、小型のポンポン船を出してもらい下須島の東にある牛島の北の海岸に上陸。中粒砂岩層の中の石灰質砂岩レンズから、Nummulitesを採集。米粒ぐらいの大きさの化石で、およそ貨幣石とは言い難い感じがした。波多江信広博士の論文「天草におけるNummulites帯について」によれば、この辺りは明石岬層に相当し、この基底部には礫岩を有し、上部は礫岩砂岩、シルト岩の交互層になっている。この黒色シルト岩中にレンズ状砂岩がある。この砂岩レンズ中に、Nummulites, Discocyclinaを多量に含有していると記載されている。牛島から下須島に移り、東側の海岸でNummulitesを含んだ砂岩層を何枚か認めることができた。

宿に戻ると、日照り続きで水が不足し、時間給水になっていた。夕食後、絵葉書に思い思いに便りを書いていた。牛深は港町で、道路工事

のせいでもあったのか何んとなくほこりっぽく感じた。

7月19日 晴

牛深—柏栗—串幣—牛深

牛深—水俣間を1日4往復する定期船を利用して獅子島に行く予定だったが、前日乗った船の船長の計いで同じ船を貸切ることができた。

獅子島の柏栗に上陸するとすぐTrigonia(三角介)を転石の中から拾えた。初めて白亜紀の地層を見、触れ、ハンマーやノミを振って巻貝、二枚貝等を採集した。たいそう硬く、閉口した。

獅子島の南海岸柏栗—立石の鼻間で化石を採集し、峠を越えて串幣(ヘグシ)へ出た。近くの小学校で喉の渇きを潤し、待っていた船に乗り、牛深に戻った。1日中、太陽に照らされてみんな疲れていたのだろう。早めに床に着いた。

7月20日 晴

牛深—南天—辰ヶ越—本渡—鬼池—網場

8時30分発魚貴経由本渡行で牛深を出発。南天で下車。停留所附近で坂瀬川頁岩を見る。表面は風化がひどく細い棒状になっていた。道路に沿って南下。白っぽく、礫を含んだ砂岩に出会った。更に南に行き、辰ヶ越バス停あたりで漣痕のはっきりした大露頭を見た。これらの特色を持っている地層は砥石層と呼ばれている。他に炭層も含んでいるそうだ。坂瀬川層と砥石

層との間に厚さ20mくらいの高緑石を含んだ砂岩がある。これは一町田砂岩層と呼ばれ天草炭田地域の地質調査上の鍵層となっている。この一町田砂岩を我々は辰ヶ越のバス停のすぐ下の海岸に露出しているのを見た。この海岸で砥石層、坂瀬川を順に見ることができた。一町田砂岩が数種類の化石を採集した。地層全体の傾斜は西60度。走向は東40度。

辰ヶ越を11時頃通過するバスで本渡に行き鬼池に行く途中、御領に寄り阿蘇溶結凝灰岩類を見て午後3時45分鬼池港発の客船で網場に戻る予定だった。しかし、牛深からのバスが30分以上も遅れ、その上に二度もバンクし、2時間あまり延着して本渡に着いた。やっとのことで3時15分鬼池のバスに間に合う次第で阿蘇溶岩は夢になってしまった。

鬼池からは1時間45分の千々石湾の船旅で網場港に着いた。かくて地学巡検はあわただし空気の中に終りを告げた。

(加藤寿俊)

後 加 者

指導教官 鎌田泰彦助教授 堀口承明助手

4年 江頭玲子, 小田忠昭, 西村暉希, 加藤寿俊, 森 誠, 坂元直孝

3年 深瀬禎仁

2年 堀田信一郎

以上10名